

人間社会学部

試験問題冊子

(A日程 1月29日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 14、記述式解答欄の A J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

心理学のはじまり

心理学という学問も比較的あたらしいものだ。最初に心理学を科学的に取り扱ったのは、1800年代後半に活躍した「実験心理学の父」ドイツの心理学者ヴィルヘルム・ヴントであるといわれている。

世界初と言いつたに伝えている心理学実験はおよそ次のようなものだ。球が地面に落ちたのが聞こえたら合図するというもので、単に音が聞こえたらソクザに合図する場合と、「音が聞こえた」と自分で気づいてから合図するのとで反応速度がどれくらい異なるかを比べた。その結果、音が聞こえてからさらに自分で確かに音が聞こえたと理解するまで0・1秒ほどの誤差があることがわかった。単に音が聞こえただけでなく、 a には余計に時間がかかるということだ。

こうして、実験心理学がウブゴエ²をあげた。もちろん、感情や思考というものがあり、それが人間性の本質だということは実験するまでもなく哲学や文学の世界ではたびたび議論されてきた話題ではあるけれど、それを実験によって明らかにしようとしたのが初めての試みだったということだ。物理学をはじめ、科学が成熟してきた時期だったのも相まって、これを機に心のはたらきを科学的に明らかにしようとする動きが強まった。これが心理学の始まりだ。

当然、感情や思考を直接観察する方法はないが、その結果である行動を観察することができることから、「行動主義」と呼ばれる行動を重要視するジョン・B・ワトソンやB・F・スキナーに代表される研究一派が登場する。有名な例には、ロシアの心理学者、イワン・パブロフの実験がある。イヌにエサを与える直前に必ずベルを鳴らすように習慣づけると、ベルを鳴らしただけでイヌがヨダレを垂らす。つまりこの後エサがもらえることを学習するというものだ。これは「パブロフのイヌ」として有名だが、正式には、「古典的条件付け」と呼ばれる心理学実験の方法だ。

なんだイヌの話かと思うかもしれないが、僕たちの行動の中にも案外、パブロフのイヌと同じものが潜んでいる。スマホの着信音が鳴ったら思わずスマホを見る、チャイムが鳴ったらお弁当の時間だと思う、電車の発車メロディが聞こえたら思わず走り出す(駆け込み乗車は危ないのでやめよう)。しかし、これらの行動をみるだけでは、その裏でどんな心のはたらきがあったのかを知ることではできないという批判もある。

b 、同時期には、オーストリアの心理学者ジークムント・フロイトらが提唱した、「人間の内面である心理や精神には無意識の欲望や幼少期の経験が色濃く影響するだろう」という理論から、心を理解しようとする動きが強まった。カール・ロジャースやアブラハム・マズローらは、僕たちを取り巻く環境が心の成長の可能性を育てることから、愛や受容などの人間性を重視しようと提唱した。すなわち、人間性心理学なども盛

んになった。マズローの思想については、また第5章で紹介する。

その後、機能的MRIと呼ばれる機械でスキャンすることによって脳の活動をリアルタイムに測定できるようになると、さまざまな認知課題や心理テストに關与する脳部位が次々に明らかにされて、さまざまな心のはたらきが生物学的な活動の一部だとわかってきた。脳科学の発展も相まって、心のはたらきを脳の活動として数値化して取り扱えるようになった。これは「認知革命^ア」と呼ばれており、ようやく心の基盤を科学的に明らかにする準備が整ったということだ。つい最近のことだ。

現在では、心理学は「行動と心的プロセスの科学である」と定義されている。人間の心は、観察し記録できるあらゆる行為である行動と、内的で主観的な体験、感覚、知覚、夢、思考、信念、感情である心的プロセスの両輪で動いているとされている。これに対して心理学は、個々の現象に対して新しいものを見つけないよりは、経験的にわかっていることをみんなが納得する形で説明するためにはどんな問いを立てればよいかというような筋道を追求する学問だともいわれている。たしかに、生物学的なアプローチではいかに未知の現象を見つけるかに重点が置かれている一方、心理学研究の論文は問いの立て方が見事なものが多い。

c

心のはたらきの分析には生物学的影響だけでなく心理学の影響や人間に固有の社会文化の影響も考慮に入れなければならない。と、教科書には書いてあるが、「心理学の影響」というのがわかりにくい。おそらくここでは、数値的に測ることができる外部からの影響に対する心的活動のことを「生物学的影響」、数値化するのは難しい内的なはたらきに対する心のはたらきのことを「心理学の影響」と呼んでいるのだろう。

たとえば、お腹が空いたからおにぎりを食べるという行為を考えてみよう。おにぎりのおいしさを決めるポイントは、食欲ホルモンの影響や消化³コウソ、塩味やそれを感じる味覚ニューロンである、などと考えるのが生物学だ。一方、おにぎりのもつ色や形、香り、なんなら食器などもおいしさに影響してくるだろう。これが心理学的影響だ。そもそもおにぎりをおいしそうと思うのはおそらく日本人だけなので（冷静に考えて真っ黒なのりに覆⁴われた中に真っ白なツブツブがぎっしり詰まっているというのは、文字だけで見るとかなりグロテスクだ）、おいしいと感じるためには社会文化の影響も欠かせない。

さらに、参考になっている『マイヤーズ心理学』（西村書店）をひもといてみると、観察する際には、以下のような多様な視点が必要とされるという。列挙すれば、神経科学的視点、進化的視点、行動遺伝学的視点、精神^ウ力動論的視点、行動的視点、認知的視点、社会文化的視点である。

たとえば、「怒り」という感情ひとつとっても、神経科学的視点では怒りの脳回路を理解したいと思うし、進化的視点では怒りが生存率を高めたのではないかと考える。行動遺伝学的視点では遺伝と経験が⁵気性にどう影響するかが気になるし、精神力動論的視点では怒りを無意識的な敵意のはけ口として理解しようとするだろう。行動的視点ではどんな刺激が怒りを誘発するかが問題となり、認知的視点では怒りが状況把握や思考に及ぼす影響という観点で研究され、社会文化的視点では怒りの表情が文化的にどう異な

るかが論点となる。

そう考えると、脳科学的な視点もひとつの切り口にすぎないというのがわかってもらえると思う。大事なのはどの考え方が自分の性格に合っているかである。おのおのが好きな方法で、心の問題に取り組んでいけばよいと思っている。僕自身は、神経科学の観点から心のはたらきを解明したいと強く思っているところだ。

(毛内 弘『氣の持ちよう』の脳科学)

問1 傍線部1、2、3、のカタカナを漢字に直し、傍線部4、5の漢字の読みをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1	A	2	B	3	C	4	D	5	E
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問2 空欄aに当てはまるものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

1

- ① 音が心の問題を解決する
- ② 音が聞こえている自分に気づく
- ③ 音の発生源がどの程度離れているのかわかる
- ④ 音がどこから聞こえているのか気づく

問3 空欄bに当てはまる接続詞として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

2

- ① なぜなら
- ② さらに
- ③ 一方
- ④ 時々

問4 傍線部ア「認知革命」が生じた理由として最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

3

- ① 脳の活動をリアルタイムに測定できるようになったから
- ② さまざまな認知課題や心理テストの精度が飛躍的に向上したから
- ③ さまざまな心のはたらきが生物学的な活動の一部だとわかってきたから
- ④ 心のはたらきを脳の活動として測定できるようになったから

問5 傍線部イ「心理学研究の論文」に関する著者の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

4

- ① 既存の現象を誰もが納得する形で説明することを重要視している。
- ② 心のはたらきを数値化することが最も重要視されている。
- ③ いかに未知の現象を見つめるかに重点が置かれている。
- ④ 神経科学の観点から心のはたらきを解明することが大切である。

問 6 空欄 c に当てはまるこの節のタイトルとして最も適切なものを、次の①～

④の中から一つ選びなさい。

5

① 切り口は学問によってさまざま

② 神経科学的観点からの心のはたらき

③ 生物学的影响と心理学的影響

④ 「怒り」という感情について

問 7 傍線部ウ「精神力動論」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一

つ選びなさい。

6

① 感情や思考の結果である行動を観察する。

② 感情や思考が文化的にどう異なるかを論じている。

③ 心理や精神には無意識の欲望や幼少期の経験が色濃く影響する。

④ 心のはたらきを脳の活動として数値化して取り扱う。

問 8 傍線部エ「おのおのが好きな方法で、心の問題に取り組んでいけばよい」とある

が、筆者がそのように考える理由として最も適当でないものを、次の①～④の中か

ら一つ選びなさい。

7

① 心の問題はさまざまな学問との関連があるから

② どの考え方が自身の性格に合っているかが大切だから

③ ひとつの現象に対するひとつの切り口に過ぎないから

④ 取り組む方法を考える時間をもつたいないから

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

日本語には、触覚に関する二つの動詞があります。

- ① さわる
- ② ふれる

英語にするとどちらも「touch」ですが、それぞれ¹ビミョウにニュアンスが異なっています。

たとえば、怪我をした場面を考えてみましょう。傷口に「さわる」というと、何だか痛そう感じがします。さわってほしくなくて、思わず患部を引っ込めたくなる。

では、「ふれる」だとうとうでしょうか。傷口に「ふれる」というと、状態をみたり、薬をつけたり、さすったり、そっと手当てをしてもらえそうなイメージを持ちます。痛いかもしれないけど、ちょっと我慢してみようかなという気になる。

(中略)

抽象的な触覚もあります。会議などで特定の話題に言及することは「ふれる」ですが、すべてを話すわけではない場合には、「さわりだけ」になります。あるいは怒りの感情はどうでしょう。「逆鱗²にふれる」というと怒りを爆発させるイメージがありますが、「神経にさわる」というと必ずしも怒りを外に出さず、イライラと腹立たしく思っている状態を指します。

つまり私たちは、「さわる」と「ふれる」という二つの触覚に関する動詞を、状況に応じて、無意識に使い分けているのです。もちろん曖昧な部分もたくさんあります。「さわる」と「ふれる」の両方が使える場合もあるでしょう。けれども、そこに私たちは¹ビミョウな意味の違いを感じとっている。同じ触覚なのに、いくつかの種類があるので。哲学の立場からこの違いに注目したのが、坂部恵です。坂部は、その違いをこんなふうに論じています。

愛する人の体にふれることと、単にたとえば電車のなかで痴漢が見ず知らずの異性の体にさわることは、いうまでもなく同じ位相における体験ないし行動ではない。³

一言でいえば、ふれるという体験にある相互嵌入の³ケイキ、ふれることは直ちにふれ合うことに通じるという相互性の³ケイキ、あるいはまたふれるということが、いわば自己を超えてあふれ出て、他者のいのちにふれ合い、参入するという³ケイキが、さわるということの場合には抜け落ちて、ここでは内―外、自―他、受動―能動、一言でいってさわるものとさわれるものの区別がはっきりしてくるのである。

「ふれる」が^aであるのに対し、「さわる」は^bである。ひとことで言えば、これが坂部の主張です。

言い換えれば、「ふれる」は人間的なかわり、「さわる」は物的なかわり、ということになるでしょう。そこにいのちをいつくしむような人間的なかわりがある場合には、それは「ふれる」であり、おのずと「ふれ合い」に通じていきます。逆に、物としての特徴や性質を確認したり、味わったりするときには、そこには相互性は生まれず、

ただの「さわる」にとどまります。

(中略)

c、人間の体を「さわる」こと、つまり物のように扱うことが、必ずしも「悪」とも限りません。たとえば医師が患者の体を触診する場合。お腹の張り具合を調べたり、しこりの状態を確認したりする場合には、「さわる」と言うほうが自然です。触診は、医師の専門的な知識を前提とした触覚です。ある意味で、医師は患者の体を科学の対象として見ている。この態度表明が「さわる」であると考えられます。

同じように、相手が人間でないからといって、必ずしもかわりが非人間的であるとは限りません。物であったとしても、それが一点物のうつわで、作り手に思いを馳せながら、あるいは壊れないように気をつけながら、いつくしむようにかわるのは「ふれる」です。

(中略)

人間を物のように「さわる」こともできるし、物に人間のように「ふれる」こともできる。このことが示しているのは、「ふれる」は容易に「さわる」に転じうるし、逆に「さわる」のつもりだったものが「ふれる」になることもある、ということです。

相手が人間である場合には、この違いは非常に大きな意味を持ちます。たとえば、障害や病気とともに生きる人、あるいはお年寄りの体にかかわるとき。冒頭に出した傷に「ふれる」はよいが「さわる」は痛い、という例は、より一般的な言い方をすれば「ケアとは何か」という問題に直結します。

ケアの場面で、「ふれて」ほしいときに「さわら」れたら、勝手に自分の領域に入られたような暴力性を感じるでしょう。逆に触診のように「さわる」が想定される場面で過剰に「ふれる」が入ってきたら、その感情的な湿度のようなものに不快感を覚えるかもしれません。ケアの場面において、「ふれる」と「さわる」を混同することは、相手に大きな苦痛を与えることになりかねないのです。

あらためて気づかされるのは、私たちがいかに、接触面のほんのわずかな力加減、波打ち、リズム等のうちに、相手の自分に対する「態度」を読み取っているか、ということとです。相手は自分のことをどう思っているのか。あるいは、どうしようとしているのか。「さわる」「ふれる」はあくまで入り口であって、そこから「つかむ」「なでる」「ひっぱる」「もちあげる」など、さまざまな接触的動作に移行することもあるでしょう。こうしたことすべてをひっくるめて、接触面には「人間関係」があります。

この接触面の人間関係は、ケアの場面はもちろんのこと、子育て、教育、性愛、スポーツ、看取りなど、人生の重要な局面で、私たちが出会うことになる人間関係です。そこで経験する人間関係、つまりさわり方／ふれ方は、その人の幸福感にダイレクトに影響を与えるでしょう。

「よき生き方」ならぬ「よきさわり方／ふれ方」とは何なのか。触覚の最大のポイントは、それが親密さにも、暴力にも通じているということです。人が人の体にさわる／ふれるとき、そこにはどのような緊張や信頼、あるいは交渉や⁴ジョウホが交わされているのか。つまり触覚の倫理とは何なのか。

(中略)

私がこの問題に関心をもつようになったきっかけは、単純に、人の体にさわる／ふれ

る経験が増えたからです。

私は、目が見えない人や耳の聞こえない人、吃音^{きつおん}のある人、四肢を切断した人など、さまざまな障害とともに生きる人が、その体をどのように使いこなし、それとどのように付き合っているのか、ご本人にインタビューをしながら研究をすすめています。インタビューというのは実はインタビュー以外の時間が重要で、その人が待ち合わせ場所ですittingしているときの姿勢や、コンビニで買いものをするときの様子、信号の渡り方など、何気なく行われるそうした動作にたくさんのヒントが含まれています。

特に目が見えない人とかかわる場合、インタビュー以外の時間は、その人を介助する時間でもあります。具体的には、自分の肘や肩に手を添えてもらい、インタビューを行う場所まで一緒に移動するのです。

(1)

その介助が、私はとても下手くそなのです。単に勉強不足で、アドリブの我流でやっているからなのですが、毎回新鮮な気持ちでドキドキしてしまいます。慌てて階段を斜めに上っては(階段は段差に対して垂直に進むのがセオリー)、「だめだよ」と当事者に注意される始末。「介助できない研究者」と笑われています。

それでも、触覚を通じて人と関係をつくるそうした機会は、私にとってはとても楽しい時間です。介助のスキルも大事なのですが、そこにはスキル以上の、何か重要な学びがあるように思えるのです。それは、このような研究を始めるまえの、文学部出身者らしく書庫の奥で文献を漁っていた時にはなかった、「触覚の目覚め」を私にもたらしめました。

「目覚め」をさらに押し進めたのは、視覚障害者向けのランニング伴走体験でした。目の見えない人を伴走する体験も面白かったのですが、特に衝撃を受けたのは、その逆つまり自分がアイマスクをして目の見える人に伴走してもらう、ブラインドランの体験でした。

(2)

最初にアイマスクをして走るようになったとき、私はパニックに近い恐怖に襲われていました。伴走者といっしょに走るには、小さなロープを輪っかにして、その両端をブラインドランナーと伴走者がそれぞれ握り、腕の振りをシンクロさせながら横に並んで走ります。ロープを介しているので間接的な接触になりますが、それでも相手の動きや意図を、ロープを通してしっかりと感知することができはるはずでした。

ところが、いざ走ろうとすると、周囲が確認できないことによる恐怖で、どうしても足がすくんでしまうのです。視覚をシャダン⁵しているにもかかわらず、木の枝や段差など行く手を阻むものがそこに「見えた」ほどでした。

けれども、ある瞬間に覚悟を決めました。伴走をしてくれているのは、サークルのリーダーも務める、ベテラン中のベテランです。この方の素晴らしい導きと、これまでにくさんの視覚障害者たちが視覚を使わずに走ってきたという歴史がある。それを信じて、身をあずけてしまおう。そう腹をくくったのです。

それ以降の時間の、何と心地よかったことか。最初は歩くことしかできませんでしたが、すぐに走れるようになり、二〇分ほど走ったあとには、全身が経験したことのないような深い快感に包まれていました。

同時に私は愕然としました。自分がそれまでいかに「人に身をあずける」ということをしてこなかったか、ということに気づかされたのです。まるで拾われてきた猫みたい です。人を信じようとせず、誰からも距離をとろうとして、そのことを自立と勘違いし てきたのかもしれない。それは脳天に衝撃が走るようなショックでした。

(3)

目が見えると、外界から得る情報は視覚に頼りがちになります。同じように、人間関 係もまた、視覚に依存しがちになります。目があったら挨拶するし、逆に関心がないこ とを示すために目を逸らすこともあります。「目上の人」「お目にかかる」といった言い 回しも視覚の重要性を表しているし、口先の言葉よりも目にこそ本心が宿ると考えられ たりもします。(中略)特に日本のようなハグや握手の習慣がない社会では、視覚の割 合はいつそう高くなりがちです。

ブラインドランが教えてくれたのは、視覚だけが他者と関係する手段ではない、とい う当たり前の事実でした。

(4)

「[d] 人間関係」から「[e] 人間関係」へ。目の見えない人との関わりが教えて くれたのは、そんな認識論と倫理学が交わる領域でした。

(伊藤亜紗『手の倫理』より一部改変)

問1 傍線部1、3、4、5のカタカナを漢字に直し、傍線部2の漢字の読みをひらが なで、それぞれ記述式回答欄に記入しなさい。

1	[F]	2	[G]	3	[H]	4	[I]	5	[J]
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

問2 空欄 [a]、[b] にあてはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次 の①～④の中から一つ選びなさい。

[8]

- | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|
| ① | a | 一方的 | b | 相互的 |
| ② | a | 相互的 | b | 一方的 |
| ③ | a | 受動的 | b | 能動的 |
| ④ | a | 能動的 | b | 受動的 |

問3 空欄 [c] にあてはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ 選びなさい。

[9]

- | | |
|---|------|
| ① | あるいは |
| ② | むしろ |
| ③ | また |
| ④ | もつとも |

問4 次の文章を入れる場所として、本文中の(1)～(4)のうち最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

10

「視覚は相手との距離を前提にした感覚なので、人間関係にも、距離をもたらし
ます。ところが、触覚は違います。信頼して相手に身をあずけると、あずけた分だ
け相手のことを知ることができる。そんな人間関係もあるのです。」

- ① (1)
- ② (2)
- ③ (3)
- ④ (4)

問5 傍線部ア「腹をくくった」の意味の説明として最も適当なものを、次の①～④の
中から一つ選びなさい。

11

- ① 決心する。
- ② お腹の底から感じる。
- ③ 覚悟を決める。
- ④ 腹をたてる。

問6 空欄 d、 e にあてはまる語の組み合わせとして、最も適当なものを、
次の①～④の中から一つ選びなさい。

12

- ① d 目が見える e 目が見えない
- ② d まなざしの e ブラインドランの
- ③ d まなざしの e 手の
- ④ d 手の e まなざしの

問7 この文章を書いた人物の職業は何か。最も適当なものを、次の①～④の中から一
つ選びなさい。

13

- ① 介護職
- ② 研究者
- ③ 文筆家
- ④ ブラインドランナー

問8 この文章に書かれている内容と一致しないのは次のどれか。最も適当なものを、
次の①～④の中から一つ選びなさい。

14

- ① Touch は日本語のさわる、ふれる、両方の意味がある。
- ② 人間関係は接触面から生じることもある。
- ③ 人間をもののようにさわることはできない。
- ④ さわり方／ふれ方は、その人の幸福感にダイレクトに影響を与える。

(以上)